



特集

・産学公民連携共同研究事業の紹介

川崎市 環境情報

検索

No.606

お知らせ

環境情報はリニューアルします

環境情報は、609号（令和5年5月発行）から、ホームページ上でご覧いただける、web版として発行します。詳しくは市ホームページをご覧ください。



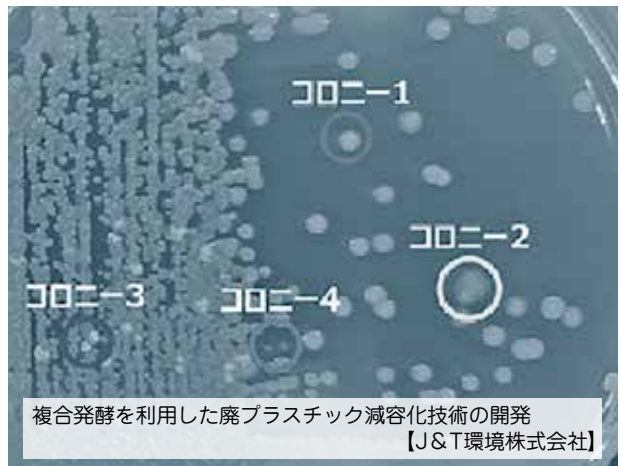
再エネ+IoTを利用したクリーンモビリティによるCO2削減に関する研究 ※2月中旬以降に設備設置予定
【株式会社サンオータス】



暑熱環境下の現場労働者の生体反応の解明とウェアラブルエアコンの暑さ対策と省エネ効果の検証 【株式会社富士通ゼネラル】



マイクロプラスチック排出量評価技術の開発
【学校法人 東京理科大学】



複合発酵を利用した廃プラスチック減容化技術の開発
【J&T環境株式会社】



オフィスの空調の省エネに貢献する調光ガラス開発
【国立研究開発法人 物質・材料研究機構】

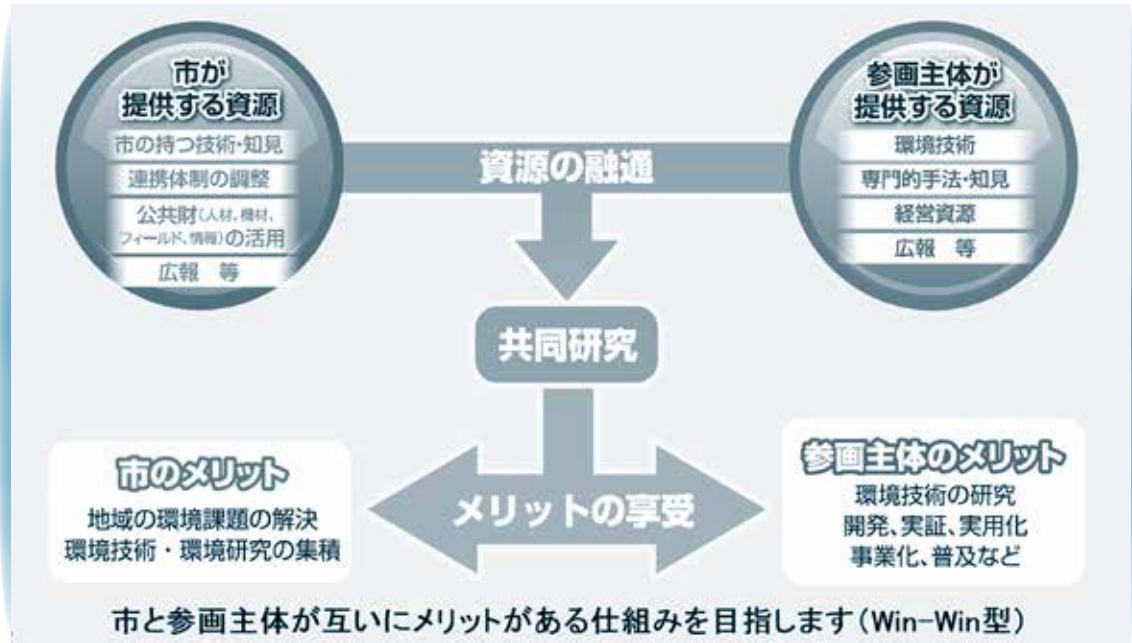
近年、多様化、複雑化する環境問題の解決に向けては、行政のみならず、産学公民の各主体が幅広く連携し、それぞれが有する最新の知見、先進的な技術、ネットワーク等を活用しながら、取り組むことが重要となっています。

本市では、企業・大学・研究機関等に対して、環境技術開発等の契機創出等の支援を行い、その成果を地域環境に還元するとともに、環境技術・環境研究の集積を図ることを目的に産学公民連携事業を行っています。



産学公民連携
共同研究事業

産学公民連携共同研究事業の特徴



共同研究事業 研究成果報告会

産学公民連携事業では、環境課題の解決に向けて実施してきた共同研究の成果を市民のみならず市民に広くお知らせするため「共同研究事業 研究成果報告会」を開催します。下記のとおり開催しますので、セミナーを通して環境問題への理解を深めていただければ幸いです。

- | | | | |
|-------------|--|------------|------|
| 日時 | 令和5年3月10日（金）14時00分～16時15分 | 定員 | 100名 |
| 開催方法 | オンライン（ZOOM） | 参加費 | 無料 |
| 申込期間 | 令和5年2月1日（水）～3月3日（金） | | |
| 申込期限 | URL又は二次元コードから申込フォームにアクセスしてお申し込みください。申込受付後、オンラインセミナー参加用のURL等をお送りします。
https://logoform.jp/form/FUQz/157398 | | |



問い合わせ：環境局環境総合研究所 TEL 276-8964 FAX 288-3156

令和3年度地盤沈下調査結果

公害としての地盤沈下は、地下水を過剰に揚水することにより、地下水位が低下し、地層が収縮することによって生じる現象です。一般に、一旦沈下が起こると元に戻すことは不可能であるため、定期的な調査・監視による早期発見と未然防止が重要となります。

●精密水準測量

令和3年度は、市内291箇所の水準点において標高を測定しました。有効水準点※のうち88箇所で見られ、最大沈下量は中原区小杉陣屋町の水準点で0.70cmでした。

●地下水位

市内に11箇所の観測用井戸を設け、地下水位等の常時監視を行っています。地下水位は近年安定しており、令和3年は全観測用井戸で大きな変動は見られませんでした。

●地下水揚水量

市条例に基づいて、揚水施設の設置事業者から揚水量の報告を受けています。令和3年の総揚水量は、約41,256 m³/日、前年（39,878m³/日）より約3.5%増加しました。

精密水準測定量結果の経年推移

項目	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
調査水準点数	397	383	374	291	291
有効水準点数※	322	316	309	237	231
沈下水準点数計	248	305	6	207	88
2cm未満	248	304	6	207	88
2cm以上4cm未満	0	1	0	0	0
4cm以上	0	0	0	0	0
年間最大沈下量	0.76cm	2.22cm	0.32cm	1.29cm	0.70cm

※有効水準点：前年度と対比が可能な水準点

問い合わせ：環境局環境保全課 TEL 200-2522 FAX 200-3921



募集

かわさきエコ暮らし未来館 春のバスツアー

かわさきエコ暮らし未来館などで環境について学ぶバスツアーを開催します！
普段はなかなか入れない施設の見学や、ペットボトルなどを使って素敵なグッズを作るエコな工作教室など、大人も子どもも楽しめる企画です。ツアーのラストは、川崎臨海部の工場夜景を楽しみましょう！



昨年の様子（工場夜景）

- 日時** 令和5年3月4日（土）13時45分～19時00分
※解散は川崎駅周辺予定。終了時間は当日の交通状況等により前後します。
- コース** 東芝未来科学館→かわさきエコ暮らし未来館・浮島処理センター→川崎マリエン（工場夜景見学）
- 集合** 東芝未来科学館前
- 対象** 小学生以上（小学生は保護者の同伴が必要です）
- 定員** 40名程度
- 申込** かわさきエコ暮らし未来館あて電話（TEL044-223-8869）でお申込みください（先着順）。2月23日（木）9時00分～受付開始。
※最新情報はかわさきエコ暮らし未来館HPを御確認ください。



かわさきエコ暮らし未来館HP▶



問い合わせ：環境局脱炭素戦略推進室 TEL 200-3871 FAX 200-3921

お知らせ



川崎市緑の実施計画 令和3年度実績報告

緑の実施計画は、緑の基本計画の施策目標を着実に推進するために策定された実行計画です。昨年度に第1期緑の実施計画の期間が終了し、第2期緑の実施計画の策定を行いました。

緑の基本計画の進行管理については、これまで緑の実施計画進捗状況報告として毎年個別に公表していましたが令和4（2022）年度から、環境分野における個別計画の進行管理を一体化し、「かわさき環境白書」の自然共生としてとりまとめ、本年1月に川崎市環境審議会において報告しました。

詳細は、市のホームページでご覧になれます。



「緑の実施計画」「かわさき環境白書」

検索



たちはなフェス



環境教育の様子

問い合わせ：建設緑政局企画課 TEL 200-2399 FAX 200-3973

お知らせ



川崎市一般廃棄物処理基本計画第2期行動計画（令和3年度）の進捗状況

市では、令和7年度までの取組の方向性を定めた「川崎市一般廃棄物処理基本計画」を平成28年3月に策定しました。また、基本計画の実効性を確保するため、4年間を計画期間とした行動計画を定めています。第2期行動計画は、平成30～令和3年度の4カ年を計画期間とし、3つの目標を定めています。令和3年度の目標の達成状況は次のとおりでした。

項目	平成28年度（基準年度）	令和3年度（実績）	令和3年度（第2期目標）
目標1 1人1日あたりの普通ごみ排出量36g削減	443g	431g（-12g）	407g（-36g）
目標2 家庭系資源化率32%	28%	26.1%（-1.9%）	32%（+4%）
目標3 ごみ焼却量2.2万t削減	36.6万t	34.8万t（-1.8万t）	34.4万t（-2.2万t）

今後も、ごみの減量化・資源化に向けた取組を引き続き推進してまいりますので、ご理解・ご協力をお願いします。なお、取組の詳細については、市ホームページ（2月中旬掲載予定）をご覧ください。

川崎市一般廃棄物処理基本計画

検索

市ホームページはこちら▶



問い合わせ：環境局廃棄物政策担当 TEL 200-2558 FAX 200-3923



浮島埋立処分場における放射能濃度等測定結果(2022年12月)

市では、ごみ焼却灰の埋立に伴い、廃棄物の最終処分場である浮島埋立処分場において、敷地境界の空間放射線量（ガンマ線）及び内水の放射能濃度（放射性セシウム濃度）について測定を行っています。12月の測定結果は次のとおりです。詳しくは市ホームページをご覧ください。

	測定値	測定日	基準等	測定頻度
空間放射線量 (単位: $\mu\text{Sv/h}$)	0.03 ~ 0.04 $\mu\text{Sv/h}$	12月6日~12月27日	国の基準値 0.23 本市の目安値 0.19	週1回
埋立処分場内水 (単位: Bq/L)	3.6 Bq/L	12月9日	国の目安値 75 本市の管理目標値 10	月1回

●詳しくは市ホームページをご覧ください。



問い合わせ：環境局処理計画課 TEL 200-2590 FAX 200-3923



大気環境 (2022年12月)

- 二酸化窒素 (NO₂): 一般局は全局で日平均値が0.06ppm以下でした。自排局は全局で日平均値が0.06ppm以下でした。
- 浮遊粒子状物質 (SPM): 一般局は全局で環境基準の短期的評価に適合しました。自排局は全局で環境基準の短期的評価に適合しました。
- 微小粒子状物質 (PM_{2.5}): 一般局は全局で日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下でした。自排局は全局で日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下でした。

		二酸化窒素(NO ₂)			浮遊粒子状物質(SPM)			微小粒子状物質(PM _{2.5})			
		月平均値 (ppm)	日平均値が 0.04ppmを 超過した 日数(日)	日平均値が 0.06ppmを 超過した 日数(日)	日平均値が 0.06ppm 以下の日数 割合(%)	月平均値 (mg/m^3)	環境基準を 超過した 日数(日)	環境基準に 適合した 日数の割合 (%)	月平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過した 日数(日)	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下の日数 割合(%)
一般環境 大気測定局	大師島	0.021	0	0	100	0.007	0	100	6.3	0	100
	川崎	0.022	0	0	100	0.009	0	100	8.7	0	100
	幸原	0.022	0	0	100	0.007	0	100	8.1	0	100
	中原	0.020	0	0	100	0.007	0	100	5.3	0	100
	高津	0.020	0	0	100	0.007	0	100	5.5	0	100
	宮前	0.020	0	0	100	0.009	0	100	8.0	0	100
	多摩	0.019	0	0	100	0.008	0	100	5.3	0	100
	麻生	0.018	0	0	100	0.007	0	100	5.5	0	100
	平均	0.014	0	0	100	0.006	0	100	4.9	0	100
自動車 排出ガス測定局	池上	0.020	—	—	100	0.007	—	100	6.4	—	100
	日進町	0.034	7	0	100	0.010	0	100	6.7	0	100
	富士見公園	0.022	0	0	100	0.009	0	100	6.5	0	100
	遠藤町	0.024	0	0	100	0.008	0	100	8.5	0	100
	中原平和公園	0.029	4	0	100	0.009	0	100	----	----	----
	二子	0.022	0	0	100	0.008	0	100	6.1	0	100
	宮前平駅前	0.029	2	0	100	0.010	0	100	8.1	0	100
	本村橋	0.024	0	0	100	0.011	0	100	7.1	0	100
	柿生	0.020	0	0	100	0.008	0	100	4.9	0	100
	平均	0.019	0	0	100	0.007	0	100	6.6	0	100
平均	0.025	—	—	100	0.009	—	100	6.8	—	100	

注1：本データは最終確定値ではありませんので、後日修正することがあります。

注2：本表中のSPMにおける環境基準評価は、当月の測定結果について短期的評価を行ったものです。

環境基準

- 1 二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下
- 2 浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10 mg/m^3 以下であり、かつ、1時間値が0.20 mg/m^3 以下
- 3 微小粒子状物質：1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下

●詳しい測定データは、市のホームページまたは下記までお問い合わせください。

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-10-2-1-0-0-0-0-0.html>



問い合わせ：環境総合研究所地域環境・公害監視担当 TEL 276-9096 FAX 288-3156

公害病被認定患者数1,133人
(認定者総数6,056人—認定失効者数4,923人)
認定失効者数4,923人
(治癒等2,103人+死亡者数2,820人)
令和4年12月末現在 (健康福祉局)

発行編集
川崎市環境局総務部企画課
電話 044 (200) 2386 (直通)
E-mail 30kikaku@city.kawasaki.jp

